

## 今年度初ステージ、神奈川県合唱祭で熱唱！

わたしたち富士通川崎合唱団は、6月26日(日)神奈川県立音楽堂において開催されました、第54回神奈川県合唱祭に出場しました。

### 【神奈川県合唱祭とは】

神奈川県合唱連盟が主催し、年に一度開催されます。今回は4日間11ブロックにわたり、約180団体、のべ5000人以上の参加がありました。各ブロック毎に、出場する団体がそれぞれ演奏を聴き合い、また、講師による講評もいただけるため、合唱を楽しむと同時に勉強にもなるイベントです。

### 【演奏内容】

#### ■曲 目：

(1) Laudate Dominum III 作曲：Vagn Holmboe(1909～1996)

(2) ぜんぶ 作詩：さくらももこ 作曲：相澤直人

#### ■指 揮：加藤雅子

### 【当日の状況・コメント】



演奏後、会場外で撮影した集合写真

今年度は3月の大震災の影響で、3月から4月にかけての練習が思うようにできなったり、毎年4月に川崎工場で実施される富士通春まつりが中止になったりと、合唱活動においても不安定な時期を過ごしてきました。でもだからこそ、みんなで声を合わせて歌う喜びやありがたさを再認識し、歌える時間や仲間を前にも増して大切に思えるようになったと感じています。

そんな中、2月以降4ヵ月ぶりで、しかも今年度初ステージとなる、この舞台。ほぼ毎年出場している本イベントですが、いろいろな意味で感慨深いものとなりそうです。

今回の演奏曲1曲目は、今年の合唱コンクールで歌うラテン語宗教曲である自由曲の内1曲、2曲目は春まつりに歌う予定であった、さくらももこ作詞の、純粹でまっすぐでそれでいて哲学的な内容のすてきな歌です。

パートが単純に混声4部ではなく、ところどころで細かく声部が分かれるというのも少人数の団としてはちょっと厳しいところですが、団員の業務が繁雑で練習への出席率が低いときでも、「パートひとりでも歌えるようにする」という目標のもと、ある時は冷や汗を、あるときは脂汗を流しながらの練習をしてきました。

9月に始まるコンクールにむけては、さらにもっと踏み込んだレベルにまで到達しなければいけないのですが、今回の演奏ではとにかく基本的なポイント（音程と強弱、全体をレガートに、等）をクリアできるよう、全員の認識をひとつにして臨みます。



**当団練習場（富士通ユニオンビル）での当日練習**

当日朝、いつもの練習場所である武蔵小杉のユニオンビルに集合し軽く練習後、桜木町の県立音楽堂へ移動します。毎度ながら、出場団体がロビーやせまい舞台裏はごったがえしています。分刻みのスケジュールで、汗をかきかきステージ衣装に着替え、客席で同ブロックの他団体の演奏を鑑賞、その後リハーサルをし、本番です。私たちの演奏は無伴奏ですが、Bブロック中「アカペラコーナー」が設けられており、コーナーのトリを務めます。

ここ数年県・関東の職場団体の代表として全国大会に出場していますし、客席ではジュニア部門の少年少女たち、学生さんたちも聞いています。決して恥ずかしくない演奏をしなれば！

実際ライトのふりそそぐ舞台に出ると、なんだか落ち着いたのは不思議です。まずは正しい姿勢で立つこと、周りのパートを聴き合いながら、曲の流れとしての強弱や、強くしても破綻しないような声の出し方を、練習の時以上に意識して歌い切ることができました。全員の声が溶け合って流れていくのを感じることができ、ほっとしました。演奏後の拍手が、演奏前よりひととき大きく聞こえたのは決して気のせいではないと思います。

今後、合唱コンクール（9月の県大会〔シード団体として参加〕、10月の関東大会）へ向け、これから練習を再開する曲も含めレベルを向上させ、11月青森で開催される全国大会に6年連続で出場すること、そして今年こそ違う色の賞（昨年まで5年連続銅賞）を獲得することを目指して、これまで以上に真摯に練習に取り組んでいきます。



アカペラコーナーのトリを務める



当日のプログラム、楽譜、団旗風プラカード用ポール

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団 （アルト）駒澤由佳】